

平成 24 年 12 月期 第 4 四半期マイルストーン開示  
(当社事業計画の進捗状況等について)

平成 25 年 2 月 7 日

上場会社名 株式会社<sup>テ</sup>・ウェスタン<sup>セ</sup>・セブ<sup>テ</sup>クス研究所 (コード番号：4 5 7 6 J Q)  
(URL <http://www.dwti.co.jp/> )  
問合せ先 代表取締役社長 日高 有一  
取締役総務管理部長 上窪 彩子 TEL：0 5 2－2 1 8－8 7 8 5

平成 24 年 12 月期第 4 四半期終了時点における事業計画の達成状況について、以下の通りお知らせします。

1. 今期事業計画の達成状況の総括

ライセンスアウト済パイプラインにつきましては、ライセンスアウト先の興和株式会社により抗血小板剤<sup>(注1)</sup>K-134 の国内後期第Ⅱ相臨床試験及び緑内障治療剤<sup>(注2)</sup>K-115 の国内第Ⅲ相臨床試験が実施されております。

新規開発品につきましては、ドラッグ・ウェスタン法によって新規緑内障治療剤H-1129 の標的タンパク質を同定しました。H-1129 につきましては、ライセンスアウトに向けた活動を進めており、有償による評価用試料の提供等を行いました。また、シグナル伝達阻害剤<sup>(注3)</sup>開発プロジェクトにつきましては、H-1129 バックアップ化合物<sup>(注4)</sup>となるリード化合物の選定を完了し、化合物最適化に向けた研究開発活動を行いました。

売上高につきましては、K-134 の国内後期第Ⅱ相臨床試験が開始されたことにより、マイルストーン収入 112 百万円を計上し、売上原価にロイヤリティ 53 百万円を計上しました。

利益面につきましては、研究開発費が 160 百万円、その他販売費及び一般管理費が 155 百万円であったことにより、販売費及び一般管理費は 316 百万円となりました。その結果、営業損失は 257 百万円、経常損失は 255 百万円、当期純損失は 256 百万円となりました。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成 24 年 12 月期 (計画)	112	△287	△287	△288
平成 24 年 12 月期 (実績)	112	△257	△255	△256
差異	—	29	32	32

2. 今期事業計画の達成状況

(1) ライセンスアウト済パイプラインの進捗状況

ライセンスアウト先の興和株式会社により抗血小板剤K-134 の国内後期第Ⅱ相臨床試験及び緑内障治療剤K-115 の国内第Ⅲ相臨床試験が実施されております。

抗血小板剤K-134 につきましては、平成 24 年 1 月 10 日に公表いたしました「抗血小板剤「K-134」の国内後期第Ⅱ相臨床試験開始、マイルストーン受領のお知らせ」及び平成 24 年 7 月 10 日に公表いたしました「抗血小板剤「K-134」の国内後期第Ⅱ相臨床試験に伴う、マイルストーン収入計上のお知らせ」のとおり、マイルストーン収入 112 百万円を計上したため、平成 24 年 12 月期における売上目標

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行なわれるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

を達成いたしました。

また、緑内障治療剤K-115の国内第Ⅲ相臨床試験につきましても、興和株式会社が想定する開発計画に従い順調に進捗しております。

パイプラインの名称	進捗状況
K-134 (抗血小板剤)	・ ライセンスアウト先の興和株式会社により国内 Phase II b が実施されております。
K-115 (緑内障治療剤)	・ ライセンスアウト先の興和株式会社により国内 Phase III が実施されております。

※HMN-214 (抗癌剤) について：ライセンスアウト先の日本新薬株式会社により、海外ライセンスアウトが検討されておりますが、現時点で Phase II a 以降の臨床試験の計画は未定です。

## (2) 新規開発品の進捗状況

新規開発品につきましては、H-1129 のライセンスアウトに向けた活動を進めましたが、平成 24 年 12 月期でのライセンス契約締結には至りませんでした。また、シグナル伝達阻害剤開発プロジェクトにつきましては、H-1129 バックアップ化合物となるリード化合物の選定を完了し、化合物最適化に向けた研究開発活動を行いました。

プロジェクトの名称	進捗状況
H-1129 (新規緑内障治療剤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 24 年 5 月 10 日公表の「新規緑内障治療剤「H-1129」の標的タンパク質同定 学会発表のお知らせ」のとおり、学会において研究成果の発表を行いました。</li> <li>ライセンスアウトに向けた活動を行いました。</li> </ul>
シグナル伝達阻害剤開発プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>H-1129 バックアップ化合物となるリード化合物の選定を完了し、化合物最適化に向けた活動を行いました。</li> </ul>

## (3) 資金等の状況

### ① 研究開発費及び設備投資の状況について

(単位：百万円)

	平成 24 年 12 月期 実績	平成 24 年 12 月期 計画	平成 23 年 12 月期 実績
研究開発費	160	183	194
設備投資	1	1	1

研究開発費：新規緑内障治療剤につき、ライセンスアウトに向けた活動を行ったほか、シグナル伝達阻害剤開発プロジェクトにかかる研究開発活動を進めました。

設備投資：主要な設備投資はありません。

### ② 資金計画について

当社は、新規緑内障治療剤のライセンスアウト状況、ライセンスアウト済パイプラインの海外サブライセンス動向、平成 23 年 12 月期に発行した新株予約権の行使状況等を踏まえ、財政状態及びキャッシュ・フローの展望を勘案し、必要に応じて財務基盤の強化を検討します。

### ③ 人員について

(単位：人)

	平成 24 年 12 月期 実績	平成 24 年 12 月期 計画	平成 23 年 12 月期 実績
人員数	22	28	28
うち研究開発人員数	11	14	14

(人員数：役職員数)

当期末時点における人員数は、平成 23 年 12 月期末より 6 名減の 22 名となっております。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行なわれるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

### 3. 用語解説

(注1) 抗血小板剤

抗血小板剤とは血小板（血液の成分の1つで血液の凝固や止血に重要な役割を果たしている成分）が有する機能の1つである凝集機能を阻害（抑制）する薬です。

(注2) 緑内障治療剤

緑内障とは視神経（網膜を含む）障害で眼底に特異的な異常が発生し、視野が欠損（視野狭窄）していく病気です。緑内障治療剤とはその緑内障による視野の欠損を抑える若しくは改善させる薬です。

(注3) 阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。医薬品としては、この酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用しています。

(注4) バックアップ化合物

開発候補化合物の上市可能性を高めるため、先行品の他に保有する化合物。バックアップ化合物があれば、万一先行品が開発途中で中断もしくは中止した場合でも、先行品に代わって遅滞なく開発することができます。

以上

【参考資料】 マイルストーン開示に係る事業計画について(平成24年12月期～平成26年12月期)、  
平成24年2月9日公表

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また、本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。